

鹿児島県産ミクリ属植物 *Sparganium* L. の記録

丸野勝敏

〒 891-0113 鹿児島市東谷山 1-51-8

■ はじめに

ミクリ科 Sparganiaceae は 1 科 1 属で、北半球全域とオーストラリア、ニュージーランドに分布し、日本では約 10 種の報告がある(角田, 1999)。池の周囲、浅い河川、休耕田等に生育する多年草である。葉は 2 列互生し、線形で直立するか水面に浮かぶ。花は単性の頭花になる。雌雄同株、下部の頭花は雌花、上部の頭花は雄花のみからなる。果実は稜のある倒卵形から長楕円形である(北村, 1987)。

鹿児島県産のミクリ属植物は、ヤマトミクリ *Sparganium fallax* Graebn., ナガエミクリ *S. japonicum* Rothert, ヒメミクリ *S. stenophyllum* Maxim. の 3 種が報告されている(初島, 2004)。湿地性植物と混生していることが多く、気づきにくく、花をつけない集団がみられ、分布等に問題が多い。ミクリ *S. erectum* L. は宮崎県都城市が南限とされ本県には生育しない(初島, 2004)とされていたが、近年筆者は鹿児島県で本種を採集した。ここでは本県で見られる 4 種の区別点、分布等を報告する。

■ 結果

ミクリ (図 1-2)

Sparganium erectum L.

標本：鹿島村中山池 (K. Maruno s.n., 10 Sept. 2004)。

Maruno, K. 2012. Records of four species of Sparganiaceae from Kagoshima Prefecture, Japan. *Nature of Kagoshima* 37: 87-90.

✉ 1-51-8 Higashi-taniyama, Kagoshima 891-0113, Japan (e-mail: bhh000368641@sat.bbq.jp).

薩摩川内市鹿島町中山で見出し、2002 年 8 月 2 日採取し、鹿児島市東谷山で栽培した。葉の長さは 2.0 m、幅は 2.0 cm ほどに成長し、5 個の花序枝をつけた。1 花序枝に 1-2 個の雌頭花を、その先に雄頭花を着けた。果実は倒卵形で稜がり、6 mm ほどであった。

薩摩川内市高江八間川下流河岸に生育するミクリ属植物に気づき観察を続けたが、毎年刈り取られ、花を着けるには至らなかった。移植後は 1 回果実を着けた。花序枝は 4、果実は倒卵形、大きさは 6 mm ほどであった。地上部は枯れるが毎年芽を現在も芽を出している。



図 1. 花序。2007 年 7 月 1 日、2002 年 8 月 2 日採取・栽培。

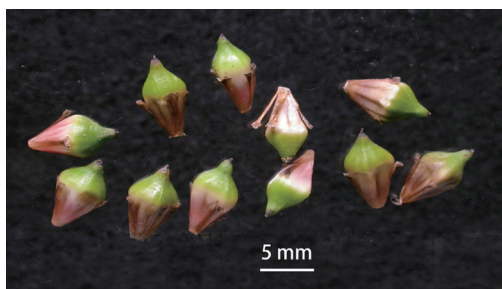


図2. 果実。花被片が残っている。2004年9月10日。



図3. 花序。雌頭花が葉腋間(腋生)につく。2011年10月2日。

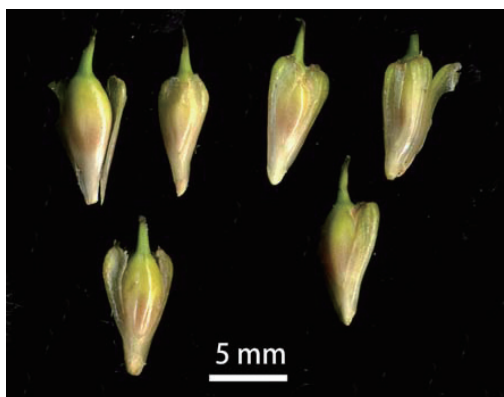


図4. 果実。花被片が残っている。2008年8月27日。

ヤマトミクリ (図3-4)

Sparganium fallax Graebn.

標本：西之表市古田 (K. Maruno s.n., 3 Nov. 1996)；末吉町岩崎 (K. Maruno s.n., 3 Nov. 1998)；大口市平出水 (K. Maruno s.n., 1 July 2000)；鹿児島郡十島村中之島 (K. Maruno s.n., 27 July 2001)；大口市馬渡 (K. Maruno s.n., 6 June 2002)；大口市高津原 (K. Maruno s.n., 28 July 2004)；大隅町月野 (K. Maruno s.n., 19 Aug. 2003)；大口市西多良 (K. Maruno s.n., 28 July 2004)。

雌頭花の柄は花序軸と合着し、雌頭花は葉腋と葉腋の間に着くように見える。花序軸は左右に曲がる。果実は楕円形で急に尖る。伊佐市曾木・羽月地区の休耕田では比較的まとまった集団がみられ、水路に沿って生えていることが多い。冬は大方が地上部は枯れるが、一部越冬する。

ナガエミクリ (コミクリ) (図5-7)

Sparganium japonicum Rothert

標本：串良町中山 (K. Maruno s.n., 12 Nov. 2002)；串良町下甫木 (K. Maruno s.n., 6 Aug. 2004)；吾平町茶園 (K. Maruno s.n., 5 Aug. 2002)；川辺町清水 (K. Maruno s.n., 6 Oct. 2004)。

最下の雌頭花は柄があり腋生である。果実は紡錘形であるが、細長い。果実の上部が嘴状に伸び、果実の柄も長い。いずれの集団も水路に生育し、葉は水中にあることが多い。

南九州市清水集団の最下雌頭花の柄は、葉腋から出て一部花序軸と合着している株がみられた。鹿屋市名貫町の集団は葉の長さ60 cmほどで、雌頭花は着生、種子は不稔であった。名貫集団はヒメミクリの可能性もあり、今後の観察が必要。



図5. 花序. 最下雌頭花の柄は葉腋から出ている (腋生).
鹿屋市串良町下浦木.



図6. 花序. 雌頭花は葉腋間についている. 南九州市清水.
2008年9月23日.

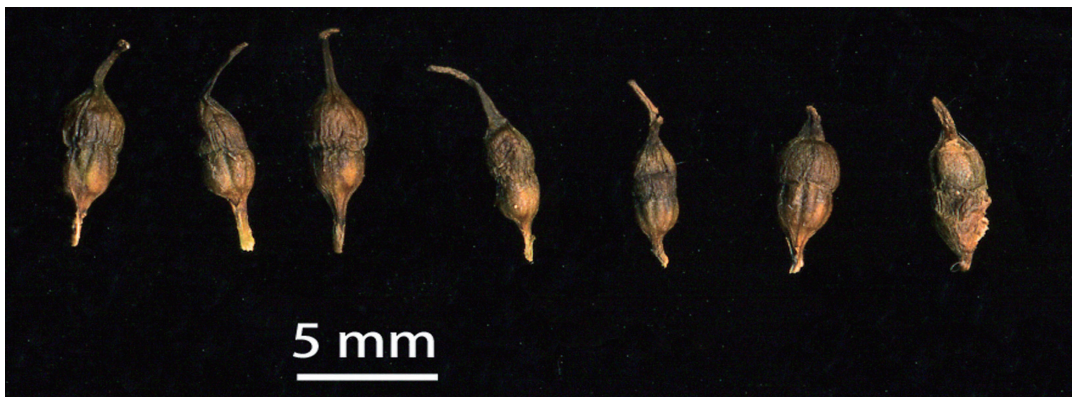


図7. 果実. 南九州市川辺町清水. 2008年10月15日.

ヒメミクリ (図8-9)

Sparganium subglobosum Morong

標本：栗野町王の山 (K. Maruno s.n., 16 Aug. 2000)；薩摩川内市藺牟田池 (K. Maruno s.n., 13 Sept. 2008).

葉の長さが50 cmほどの小形のミクリである。果実柄がなく、花序軸に着生する。果実は倒卵形、大きさは3 mmほどであった。



図8. 花序. 雌頭花に柄がない(着生). 薩摩川内市菌牟田池. 2008年9月13日.



図9. 果実. 充実した果実は倒卵形である. 薩摩川内市菌牟田池. 2008年9月13日.

■ 4種の区別点

ミクリ：花序枝が5本前後，果実は倒卵形，7 mm ほど。

ヤマトミクリ：雌頭花の柄は花序軸に合着．果実は紡錘形．主に池・休耕田に生える．

ナガエミクリ：最下の雌頭花に柄がある（稀に柄が花序軸と一部合着）．果実は細い楕円形．

ヒメミクリ：雌頭花は花序軸に着生．果実は倒卵形，3 mm ほど．

■ 引用文献

- 北村四郎. 1987. ミクリ科, pp. 418–421. 北村四郎・村田源・小山鐵夫(著), 原色日本植物図鑑, 草本編 (III)・単子葉類. 保育社, 東京.
- 角野康郎. 1994. 日本の水草図鑑. 文一総合出版, 東京. 178 pp.
- 初島住彦. 2004. 九州植物目録. 鹿児島大学総合研究博物館研究報告, (11): 1–343.